

真駒内駅前地区まちづくり計画〈素案〉

目 次

第1章	計画の目的・位置付け	1
1-1	背景・目的	1
1-2	位置付け	2
1-3	札幌市が目指すまちづくり	2
1-4	対象区域	5
1-5	計画期間	6
1-6	これまでの取組	6
1-7	計画策定の検討体制	7
第2章	真駒内地域の現状・課題	8
2-1	真駒内地域の歴史	8
2-2	人口の推移	10
2-3	土地利用・建物の立地状況	11
2-4	交通の現況	17
2-5	地価の推移	20
2-6	みどり・公園の現況	20
2-7	エネルギー	22
2-8	地域資源	22
2-9	区民の意識	24
2-10	まとめ	25
第3章	まちづくりの方向性	26
3-1	まちづくりの基本方針	26
3-2	再編コンセプト	28
第4章	土地利用計画	30
4-1	土地利用の考え方	30
4-2	各街区の機能・役割	33
4-3	街並み・ネットワークの形成	42
4-4	土地利用計画図	44
第5章	まちづくりを支える取組	46
5-1	みどり・景観形成	46
5-2	地域主体のまちづくり	48
5-3	周辺地域への波及・展開	49
第6章	スマートコミュニティの形成に向けて	52
6-1	構想の概要	52
6-2	施策の方向性	53
6-3	スマートコミュニティ形成に向けた技術導入の考え方	54
6-4	今後に向けて	56
第7章	今後の流れ	57

第1章 計画の目的・位置付け

1-1 背景・目的

南区は豊かな自然に恵まれ、ゆとりある居住環境が形成されているとともに、芸術の森や定山溪などの芸術文化拠点や観光拠点、札幌市立大学をはじめとする教育機関など、多様な地域資源を有しています。

このうち真駒内地域は、みどり豊かな住宅地として計画的な整備がなされ、昭和47年（1972年）には札幌冬季オリンピックの主会場となり、真駒内屋内競技場などのスポーツ施設をはじめ、現在の真駒内地域を特徴づける施設整備が集中的に進められるなど発展を遂げてきました。

しかしながら、南区では平成10年（1998年）に10区で初めて人口が減少に転じ、少子高齢化も進行しており、真駒内地域においても、昭和60年（1985年）以降人口が減少し続けています。

また、真駒内駅前地区（以下「駅前地区」という。）には、札幌冬季オリンピックや政令指定都市移行の前後に集中的に建築された市有施設等が多く立地しており、今後それぞれが更新時期を迎えることとなります。

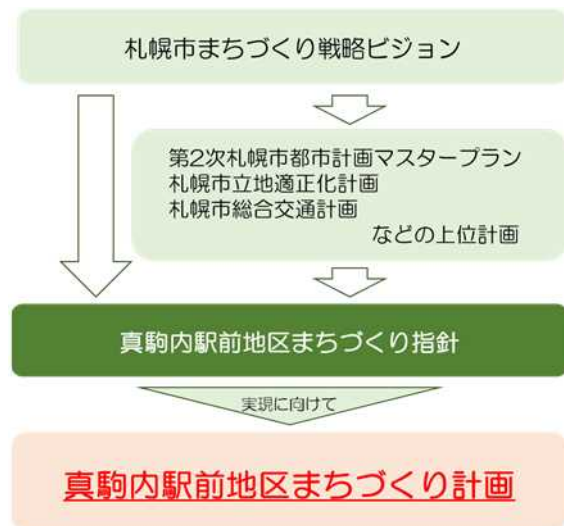
そのような状況のもと、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」においては、真駒内駅周辺を交通結節点であり、区の拠点としての役割を担う地域として「地域交流拠点」に位置付け、多様な都市機能の集積、快適な歩行空間の創出を図ることとしています。

また、平成25年（2013年）5月に「真駒内駅前地区まちづくり指針」（以下「指針」という。）を策定し、現在の「通過型」から人が集まる「滞留・交流型」の駅前地区を目指すことや、駅前地区の活動と交流の広がりや南区全体の魅力の向上へつなげるため、真駒内地域はもとより南区全体の拠点として駅前地区の再生に向けた取組を展開することとなっています。

こうした状況を踏まえ、真駒内地域はもとより南区全体の魅力向上に向けた先導的な取組として真駒内駅前地区を再生するため、土地利用再編の方向性を具体化し、駅前地区のまちづくりの取組の方向性を示す「真駒内駅前地区まちづくり計画」を策定することとしました。

1-2 位置付け

本計画は、札幌市のまちづくりにおける最上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」をはじめ、各分野の上位計画に即しながら、平成25年（2013年）に策定した「真駒内駅前地区まちづくり指針」の実現に向け、駅前地区のまちづくりの取組の方向性を示すものです。



1-3 札幌市が目指すまちづくり

（1）札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）【平成25年（2013年）10月】

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」とは、札幌市のまちづくりの計画体系では最上位に位置付けられる「総合計画」であり、真駒内駅前を含めた主要な地下鉄駅周辺などを「地域交流拠点」として位置付け、具体的な施策の方向性を示しています。

特に、真駒内駅周辺については、市内におけるリーディングプロジェクトの一つとして、大規模な土地利用転換などに合わせて、その拠点の特徴を踏まえたまちづくりを進めることとしています。

◆地域交流拠点

交通結節点である主要な地下鉄・JR 駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域

◆施策の方向性

- ・再開発などによる都市機能の誘導
- ・地下鉄始発駅（ゲートウェイ拠点）の重点的な整備の促進
- ・快適な歩行空間の創出促進
- ・区役所等の拠点などへの配置

◆真駒内駅周辺のまちづくり

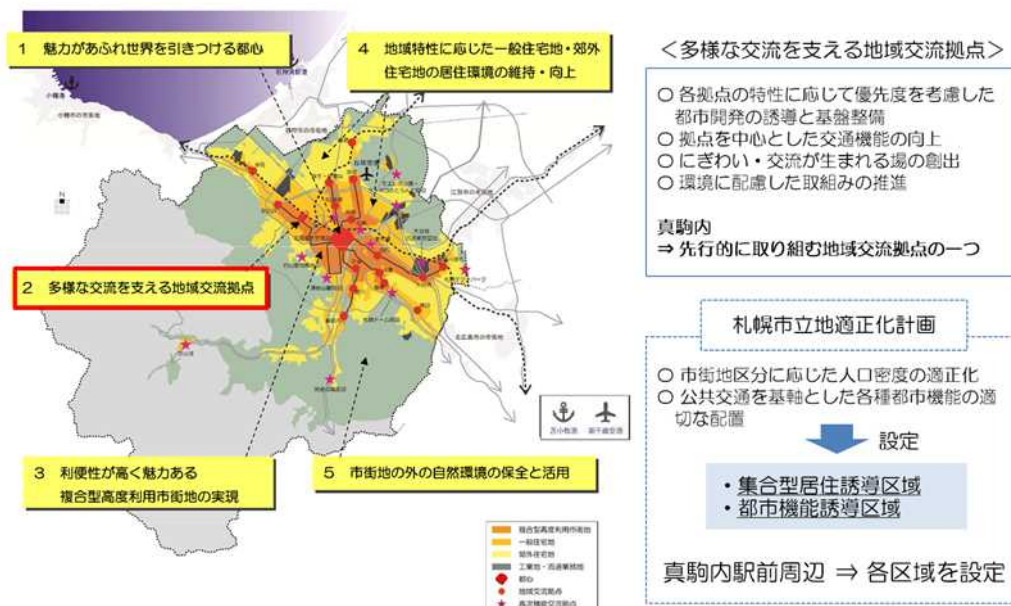
真駒内地域はもとより南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開します。

- ・旧真駒内緑小学校の跡施設を活用した多様な連携・交流の推進
- ・駅前地区を中心とした滞留・交流空間等の充実や土地利用再編の推進
- ・周辺の魅力資源への入り口にふさわしい場の形成の推進
- ・既存の熱供給ネットワークを活用した低炭素型まちづくりの検討

（２）第２次札幌市都市計画マスタープラン・札幌市立地適正化計画【平成28年（2016年）3月】

札幌市の目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向性を示した「第２次札幌市都市計画マスタープラン」においても、地下鉄駅周辺などを「多様な交流を支える地域交流拠点」とし、都市開発の誘導・基盤整備、交通機能の向上、にぎわい・交流が生まれる場の創出、環境に配慮した取組の推進を優先的に行っていくこととしています。そのうち、真駒内については、先行的に取り組む地域交流拠点の一つとして位置付けられています。

また、市街地区分に応じた人口密度の適正化や公共交通を基軸とした各種都市機能の適切な配置を図るため、都市計画マスタープランとともに策定された「札幌市立地適正化計画」においては、真駒内駅周辺に、集合型の居住機能の集積を目指す「集合型居住誘導区域」や、日常生活を支える利便機能や公共サービス機能の集積を目指す「都市機能誘導区域」を設定しています。



（３）札幌市総合交通計画【令和2年（2020年）3月 改定】

「札幌市総合交通計画」は、20年後を想定した将来交通について整理した「基本的な考え方」と、令和元年度から概ね10年間の交通施策・事業をまとめた「交通戦略」から構成されています。

真駒内駅周辺地区については、「交通戦略」のうち、市民の『多様な暮らし』を支える交通施策の中で「主な交通施策・事業」の一つに位置付けられています。

◆実施目標（市民の多様な暮らしを支える施策）

地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点を形成するため、民間の開発やまちづくりの機会を捉え、安全で快適な歩行環境の確保や乗継・移動環境の向上に向けた取組を進めます。

(4) 真駒内駅前地区まちづくり指針【平成25年(2013年)5月】

平成25年(2013年)5月に策定した「真駒内駅前地区まちづくり指針」においては、真駒内地域はもとより南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開することとし、「通過型から人が集まる滞留・交流型の駅前地区を目指す」ことや「駅前地区の活動と交流の広がり」で南区全体の魅力の向上へつなげる」ことを基本方針としています。

当面は、旧真駒内緑小学校を活用した先導的な取組(後段1-6参照)を進めることでまちづくりの機運を醸成し、将来的には、土地利用を計画的に再編することで、拠点機能の向上と環境にやさしいまちづくりの実現を目指すこととしています。

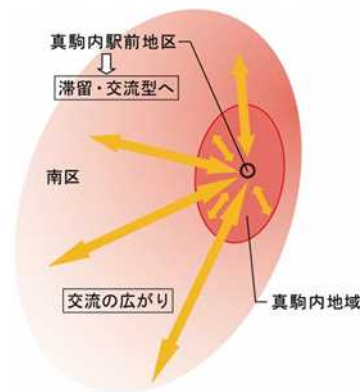
基本方針

真駒内地域はもとより南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開する。

- 通過型から人が集まる滞留・交流型の駅前地区へ
- 駅前地区の活動と交流の広がり」で南区全体の魅力向上へ

基本目標

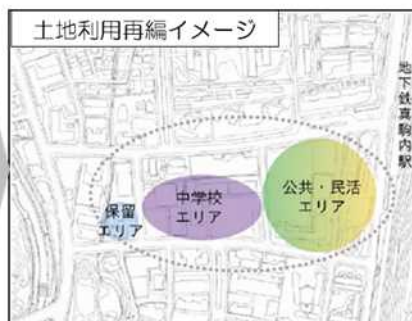
- 駅の拠点性を活かしたにぎわい・交流の創出
- 安全で安心な暮らしを支える機能の確保
- 多様なコミュニティ活動が展開する場の形成
- みどりと歴史を感じ、環境にもやさしい街並みづくり



将来的な取組の方向 ～駅前地区の土地利用の再編～

<取組の考え方>

- 多くの人々が利用しやすいよう、行政・公共サービス機能を地下鉄駅に近づけて配置
- 生活利便機能や滞留・交流空間等の充実のため、民間活力の導入可能性を検討
- 新たな機能配置に対応し、交通結節点機能の向上を検討



※具体化する段階で改めて検証・協議し、柔軟に対応

【公共・民活エリア】

老朽化した市有施設を再配置するとともに、余剰地への民間活力の導入を図る。

【中学校エリア】

公共・民活エリアの予定範囲に立地している真駒内中学校の建替え用地とする。

【保留エリア】

上記2つのエリアでの施設配置が困難な場合、公共用地として活用

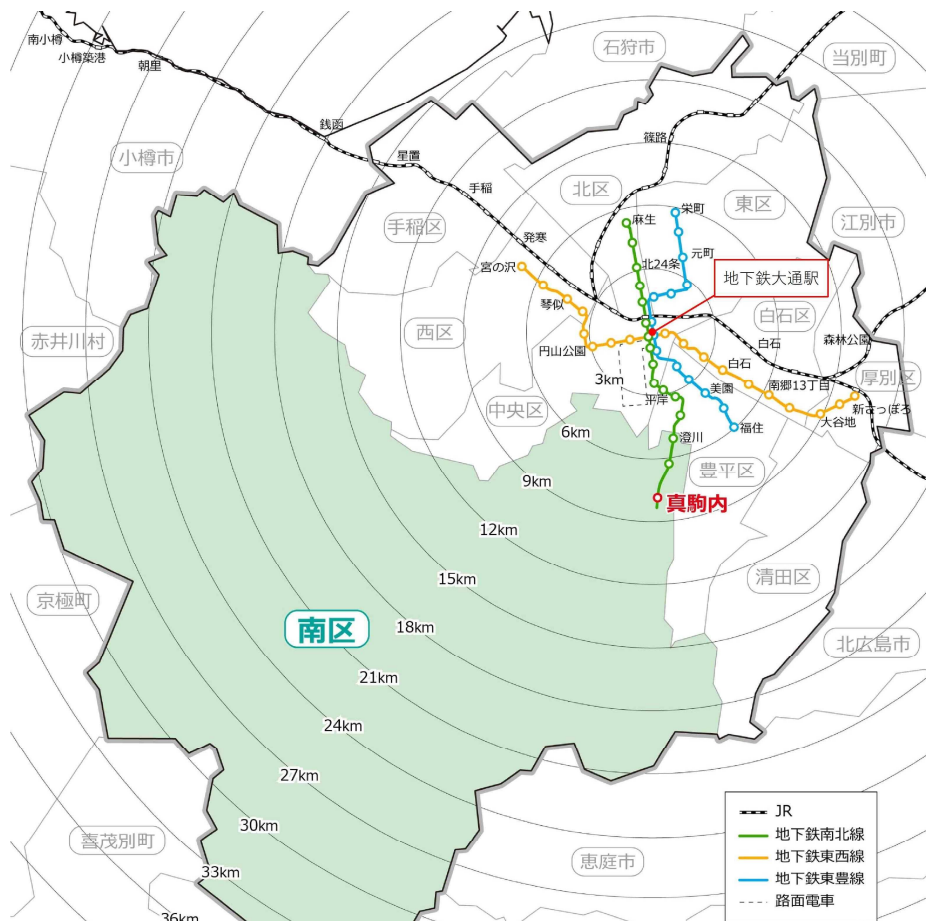
<土地利用再編に合わせた総合的な取組>

- 市有施設以外の更新動向も踏まえた連携・協調など、土地利用再編の区域の拡大
- 滞留空間の充実など、駅前にふさわしい空間づくり
- 施設更新に当たってのデザインの調整など、駅前の街並みの魅力向上
- 駒岡清掃工場の廃熱を利用した地域熱供給の活用・発展など、環境にやさしいまちづくり

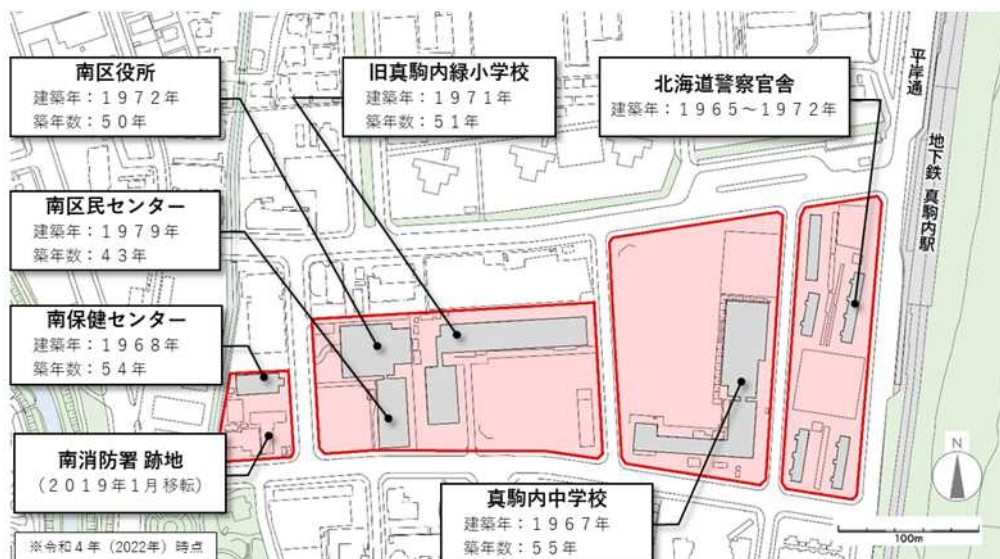
1-4 対象区域

真駒内駅は、札幌市営地下鉄南北線の南端の始発駅で、札幌の都心部（地下鉄大通駅）から約8km南方に位置しています。南区の各地域が後背に広がっており、南区の交通結節点としての機能を有しています。

真駒内駅周辺のうち、市有施設等が集積した下図赤枠内の区域（約5ha）を土地利用再編の対象とし、その周辺の道路も含めて本計画の対象区域とします。また、対象区域周辺で、将来的な土地利用転換等がなされる場合は、本計画を踏まえた連携についても検討するものとします。



対象区域



1-5 計画期間

計画期間は、計画策定から概ね15年程度を想定しています。

※真駒内中学校が対象区域外に移転することが予定されており、その後、行政施設を移転させながら段階的に施設整備を進めるため、全体として概ね15年程度を見込んでいます。

1-6 これまでの取組

(1) 真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ【平成26年(2014年)】

まちづくりの気運を高めるため、「真駒内 2014～2040 ～駅前の交流の広がりから南区の魅力創造へ～」をテーマに、全国から広くまちづくりのアイデアを募集するコンペを開催しました。

国内外から合計78件の作品応募があり、まちづくりへの自由な提案が集まりました。



(2) まこまる(旧真駒内緑小学校)の活用【平成27年(2015年)～】

平成24年(2012年)3月に閉校となった旧真駒内緑小学校を、子どもを中心とした連携・交流の場「まこまる」としてリニューアルし、平成27年(2015年)4月にオープンしました。現在、南区保育・子育て支援センター(ちあふる・みなみ)、子どもの体験活動の場(Co ミドリ)、札幌市立大学まこまないキャンパス、教育支援センター真駒内・まこまる教育相談室として活用されています。

また、真駒内及び南区の食べ物やクラフトなどを販売する「まこマルシェ」など、地域の各種イベントも開催されてきました。



1-7 計画策定の検討体制

まちづくり計画策定に当たっては、様々な意見聴取方法を組み合わせ、幅広く多面的な視点から検討を実施しました。

積み上げ型の検討	適時の意見聴取
◆検討委員会 有識者や事業者の専門的視点から検討 地域コミュニティ、都市計画 交通、経済、観光等 12名で構成 ◆地域協議会 地域住民の視点から検討 連合町内会、まちづくり活動団体 子育て世代、学生等 23名で構成 《実施状況》 第1回：南区・真駒内地域の現状や課題 検討委員会（H30.11） 地域協議会（H31.2） 第2回：まちづくり基本方針について 検討委員会（R1.7） 地域協議会（R1.8） 第3回：再編コンセプトについて 検討委員会（R2.3） 地域協議会（R2.10） 第4回：土地利用計画について 検討委員会（R3.2） 地域協議会（R3.3） 第5回：まちづくりを支える取組について 検討委員会（R4.3） 地域協議会（R4.3） 第6回：まちづくり計画素案について 検討委員会（R4.11） 地域協議会（R4.11）	◆アンケート調査・オープンハウス 地域住民を対象に、幅広く地域の意向を把握 《実施状況》 第1回アンケート調査（H31.4～5） 調査内容：駅前地区再編にあたり重視すべきこと 第2回アンケート調査（R3.5） 調査内容：土地利用計画案 （各街区の使い方、2つの案に対する評価） 《実施状況》 第1回オープンハウス：南区民センター（R3.12） 展示内容：土地利用計画案 交通解析 真駒内駅と駅前街区の接続方法検討 第2回オープンハウス：まこまる（R4.5） 展示内容：土地利用計画案 交通解析 真駒内駅と駅前街区の接続方法検討 まちづくりを支える取組 ◆事業者ヒアリング・サウンディング型市場調査 民間事業者を対象に、事業の実現性等を把握 《実施状況》 第1回事業者ヒアリング（H31.1～2） 調査内容：真駒内への評価 まちづくりを進める上での課題 第2回事業者ヒアリング（R2.1） 調査内容：真駒内駅前地区の評価と事業可能性 サウンディング型市場調査（R3.5） 調査内容：土地利用計画案の評価と各街区の 事業可能性

第2章 真駒内地域の現状・課題

2-1 真駒内地域の歴史

真駒内地域の歴史は、明治9年（1876年）にエドウィン・ダンが放牛場、後の真駒内種畜場を開いたことから始まり、昭和21年（1946年）には、真駒内種畜場が米軍に接收され第11空挺師団が駐留し、その基地であるキャンプ・クロフォードの建設が始まりました。その後、昭和34年（1959年）にキャンプ・クロフォードの返還が完了し、北海道施行による真駒内団地の造成が開始されました。また、昭和46年（1971年）に地下鉄南北線の北24条駅から真駒内駅間が開通し、昭和47年（1972年）には、札幌冬季オリンピックが開催されるとともに、政令指定都市移行に伴い南区が誕生しました。こうして、現在の真駒内地域のまちの骨格がつくられてきました。

年代	できごと
明治 9 年（1876 年）	エドウィン・ダンが真駒内に放牛場（後の真駒内種畜場）を開く
大正 7 年（1918 年）	白石から定山溪に定山溪鉄道開通（1969 年廃止）
大正 12 年（1923 年）	真駒内種畜場内にモーテン・ラーセン農場開設
昭和 21 年（1946 年）	真駒内種畜場が米軍に接收され、キャンプ・クロフォードの建設が始まる
昭和 30 年（1955 年）	キャンプ・クロフォードの返還開始、代わって自衛隊が駐屯
昭和 34 年（1959 年）	キャンプ・クロフォードの返還終了、真駒内団地の造成開始（北海道施行）
昭和 36 年（1961 年）	札幌市と豊平町合併
昭和 41 年（1966 年）	真駒内団地区画整理事業完了／札幌が 1972 年冬季オリンピックの開催地に決定
昭和 44 年（1969 年）	定山溪鉄道の廃線
昭和 46 年（1971 年）	地下鉄南北線開通（北 24 条駅～真駒内駅）
昭和 47 年（1972 年）	札幌冬季オリンピックの開催 / 政令指定都市移行に伴い南区誕生
昭和 50 年（1975 年）	真駒内公園開園
昭和 54 年（1979 年）	南区民センター完成
昭和 59 年（1984 年）	南区体育館・真駒内児童会館オープン
昭和 60 年（1985 年）	駒岡清掃工場操業開始
平成 6 年（1994 年）	真駒内五輪児童会館オープン
平成 17 年（2005 年）	さっぽろ雪まつり真駒内会場が廃止
平成 24 年（2012 年）	真駒内地域の4小学校を統合し、真駒内公園小学校と真駒内桜山小学校が設置
平成 25 年（2013 年）	「真駒内駅前地区まちづくり指針」の策定
平成 27 年（2015 年）	「まこまる」として旧真駒内緑小学校の跡活用開始
平成 29 年（2017 年）	「みなみの杜高等支援学校」が開校



真駒内団地の造成（1972 年）



冬季札幌五輪（1972 年）



地下鉄建設（1970 年）



真駒内駅前（2022 年）

真駒内地域では、急増していた札幌市の人口を受け止める住宅団地として、北海道や独立行政法人都市再生機構などによる大規模な団地造成が行われました。造成に当たっては、「近隣住区」の思想に基づいた基盤整備が実施されました。近隣住区とはまちづくりの手法の一つで、小学校や公共施設を中心に住宅を配置して一つの「住区」を形成し、通過する自動車交通は外縁の幹線道路を通行させることで、住区内は主に徒歩での移動を想定した都市基盤を整備するものです。

真駒内団地の造成においても、小学校を中心に戸建住宅ゾーン、それらを囲むように集合住宅ゾーンが配置されました。また、みどり豊かな中央分離帯を有する広幅員道路が団地を南北に縦断しており、沿道には店舗用地や医療施設用地を配置し、公園や緑道とのネットワークも形成されるなど、住区内は主に徒歩での連絡が想定されていました。

このように、道路や公園などの都市基盤の整備水準は非常に高く、造成当初から「歩いて暮らせるまちづくり」が進められてきたと言えます。

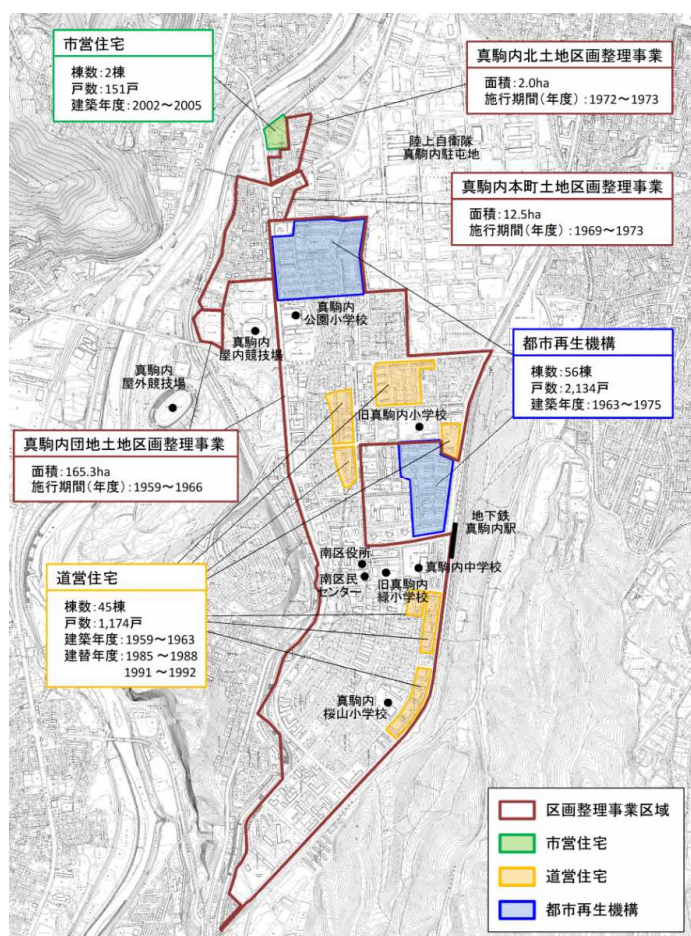
なお、真駒内駅は団地造成が概ね進んだ昭和42年（1967年）に地下鉄南北線の整備計画が市議会で可決され、現在の位置に設置されたものです。

団地造成時の計画

資料：北海道真駒内団地二期計画地区基本計画概要書
第1期計画 施設配置図（1962年）に加筆



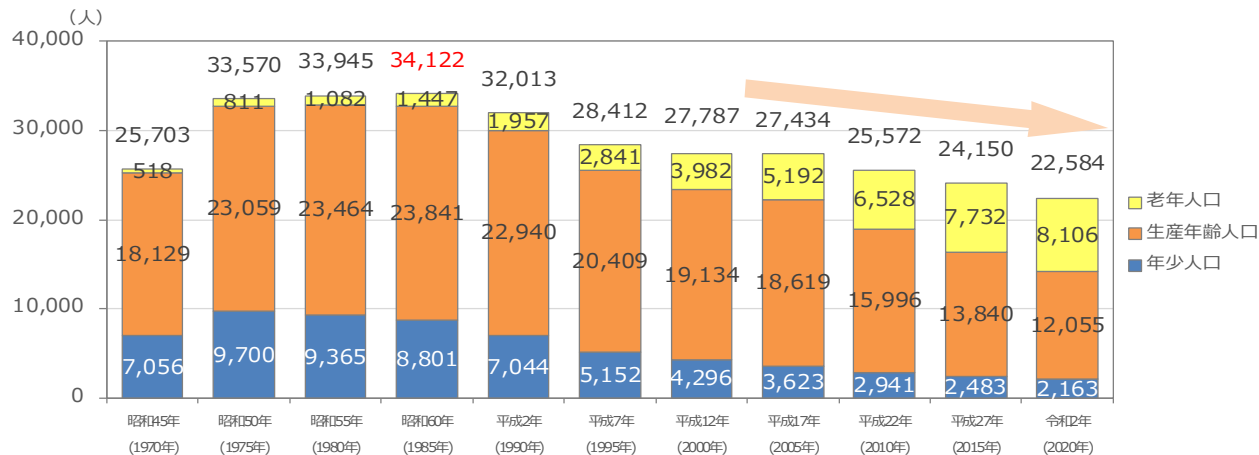
真駒内地域の公的開発状況



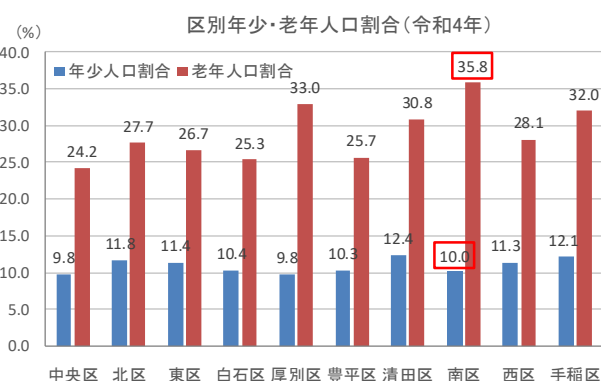
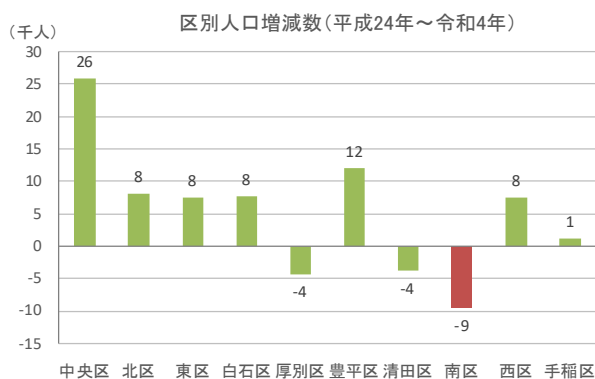
2-2 人口の推移

- ・真駒内地域では、昭和60年をピークに人口が減少し、同時に少子高齢化が進行。
- ・南区においても、市内10区の中で人口減少・少子高齢化が最も進行している。
- ・真駒内地域を含む南区は、将来的にも大きな人口減少が予測されている。

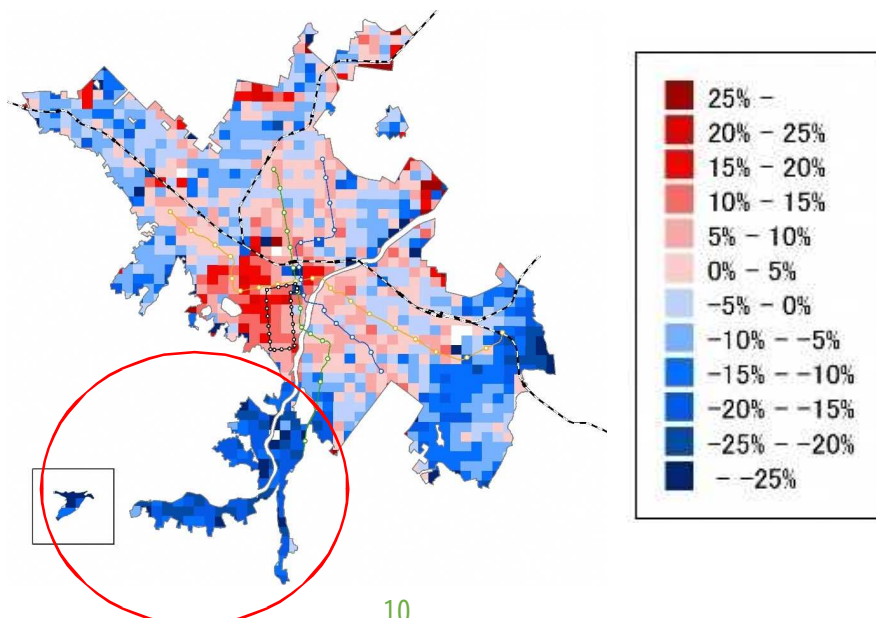
真駒内地域の人口推移 資料：国勢調査



区別人口増減数、年少・老年人口割合 資料：住民基本台帳（平成24年1月、令和4年1月）



将来人口総数増減率 (H23~R12) 資料：「国土数値情報 (500m メッシュ別将来推計人口 (H30 国政局推計))」(国土交通省)

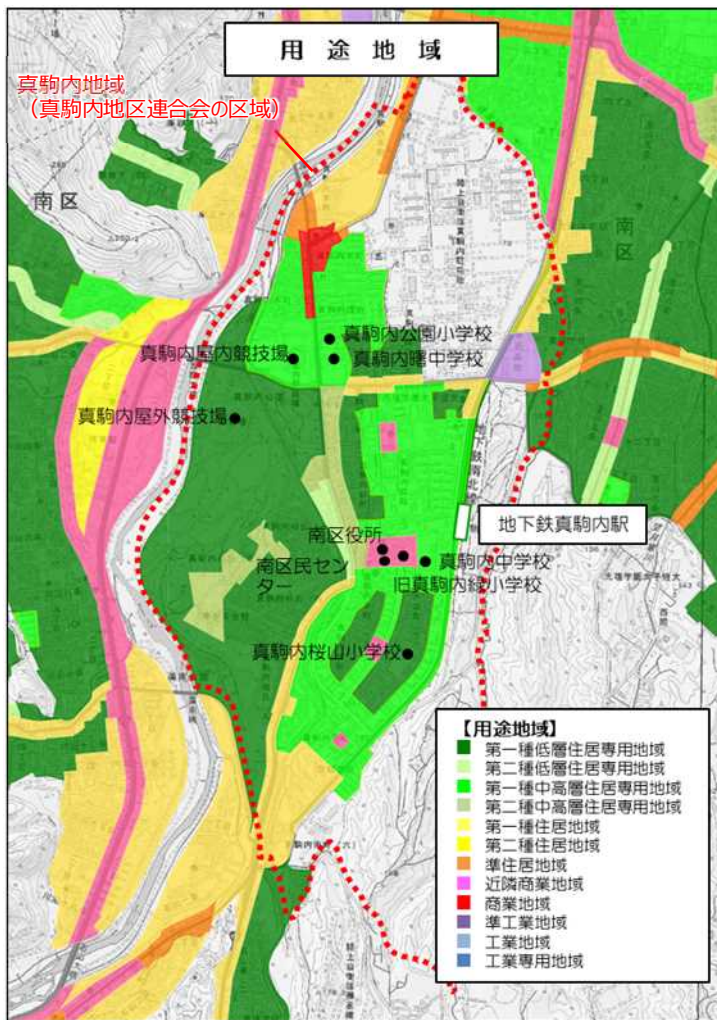


2-3 土地利用・建物の立地状況

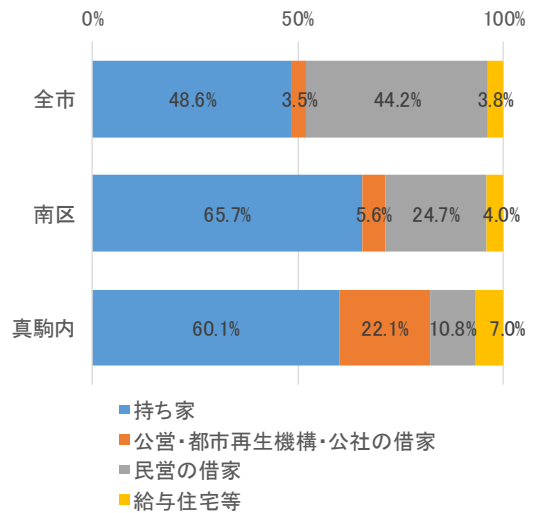
《真駒内地域》

- ・住宅地として造成された経緯から、用途地域は主に住居系用途が中心で、商業系は分散して局所的に指定されている。
- ・住宅の所有状況は、「持ち家」と「公営・都市再生機構・公社の借家」の割合が高く、「民営の借家」の割合が低い傾向にある。
- ・共同住宅が減少する一方で、戸建住宅が増加している。

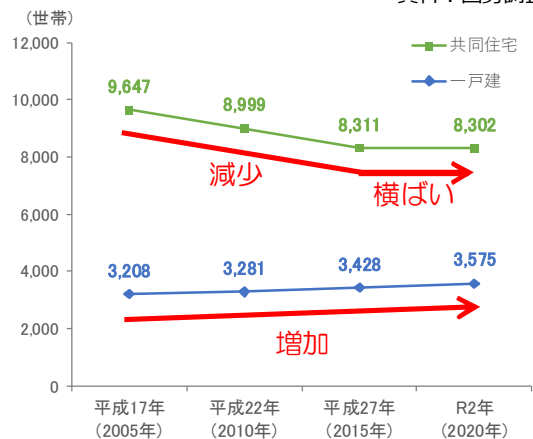
真駒内地域の用途地域指定状況 資料：国勢調査



住宅所有種類別の割合 資料：令和2年国勢調査

真駒内地域における
共同住宅・一戸建てに住む世帯数の推移

資料：国勢調査



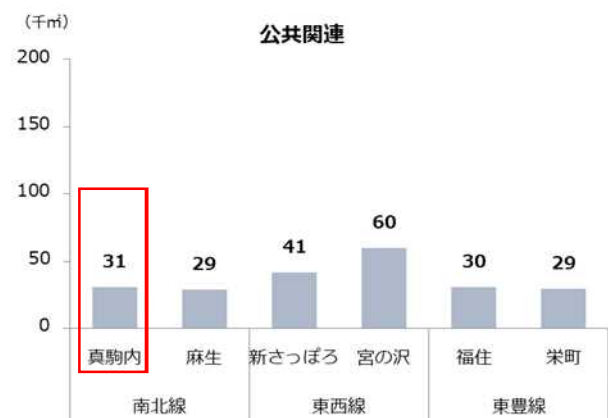
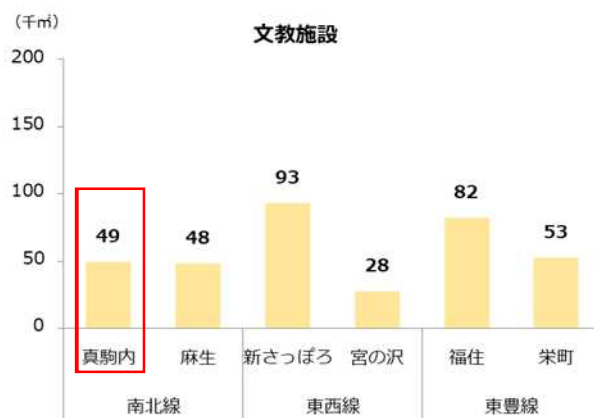
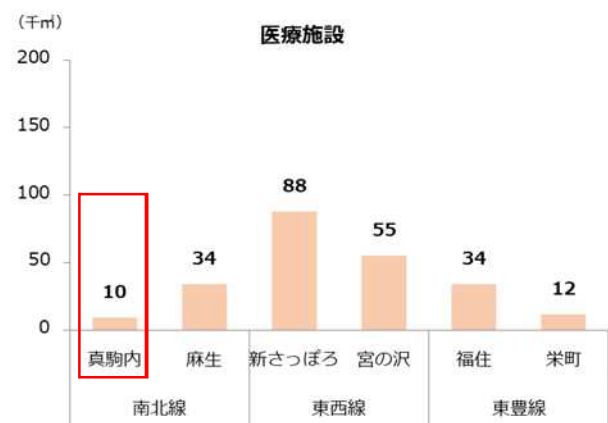
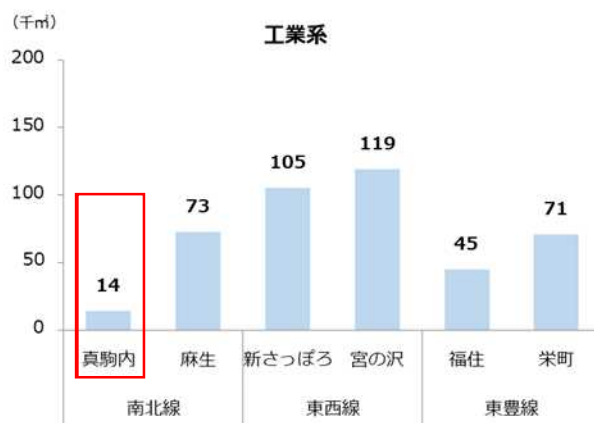
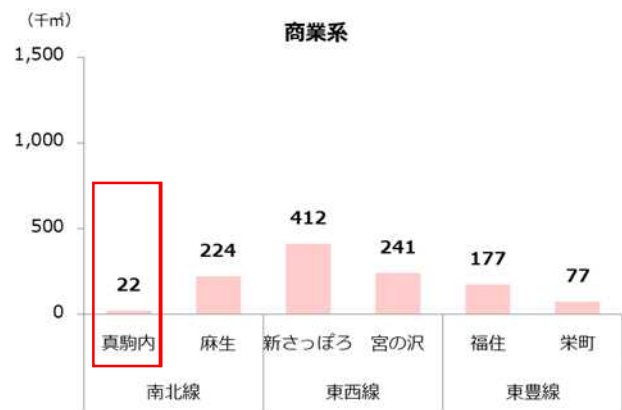
《真駒内駅周辺》

- ・真駒内駅周辺は、他の地下鉄駅始発駅と比べて、文教施設や公共関連施設（官公署施設、社会福祉施設）はある程度集積している一方、商業系施設、工業系施設、医療施設は非常に少ない。
- ・また、事業所数・従業者数が最も少なく、駅周辺に働く場が少ない。
- ・駅前に公共施設が多く集積しているが、築40年以上経過し、更新時期を迎えている。

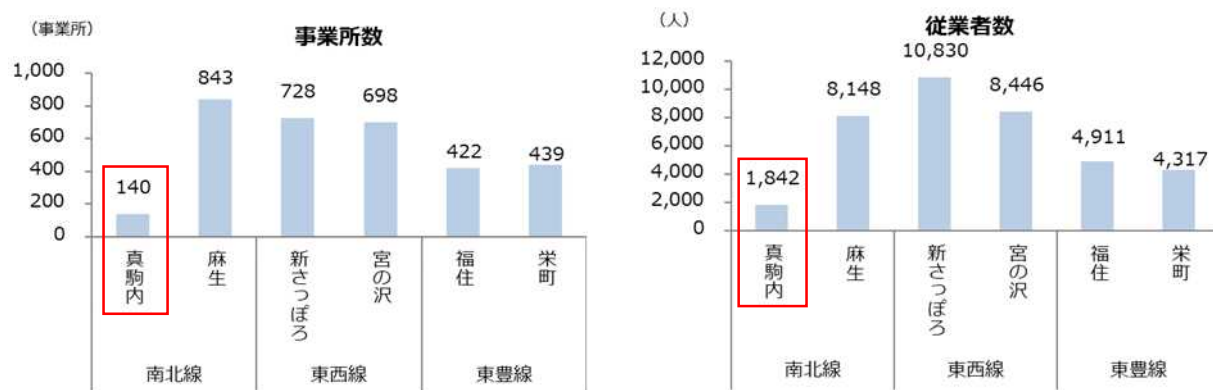
地下鉄始発駅周辺（800m 圏内）に含まれる施設床面積

資料：札幌市都市計画基礎調査（令和3年3月31日時点）

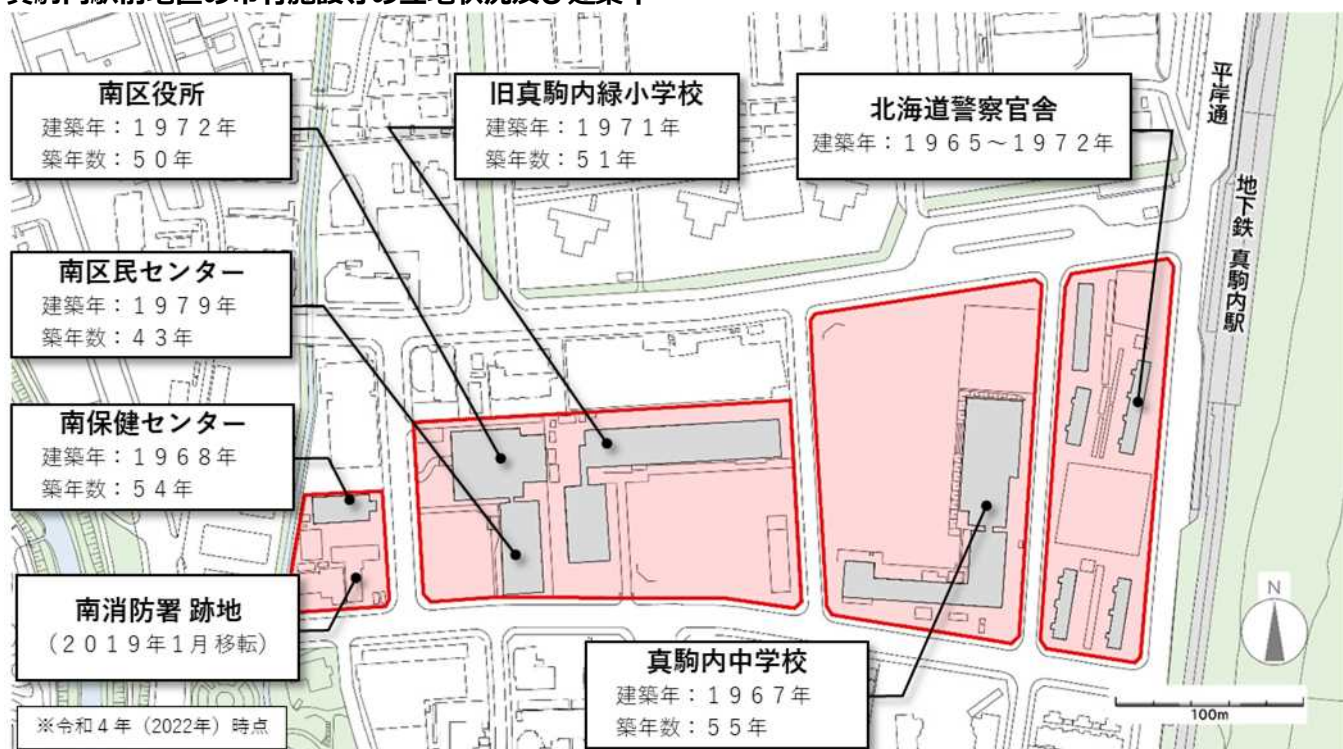
※真駒内：800m 圏内のうち澄川エリアを除く



事業所数・従業者数 資料：平成28年経済センサス ※真駒内：800m圏内のうち澄川エリアを除く



真駒内駅前地区の市有施設等の立地状況及び建築年



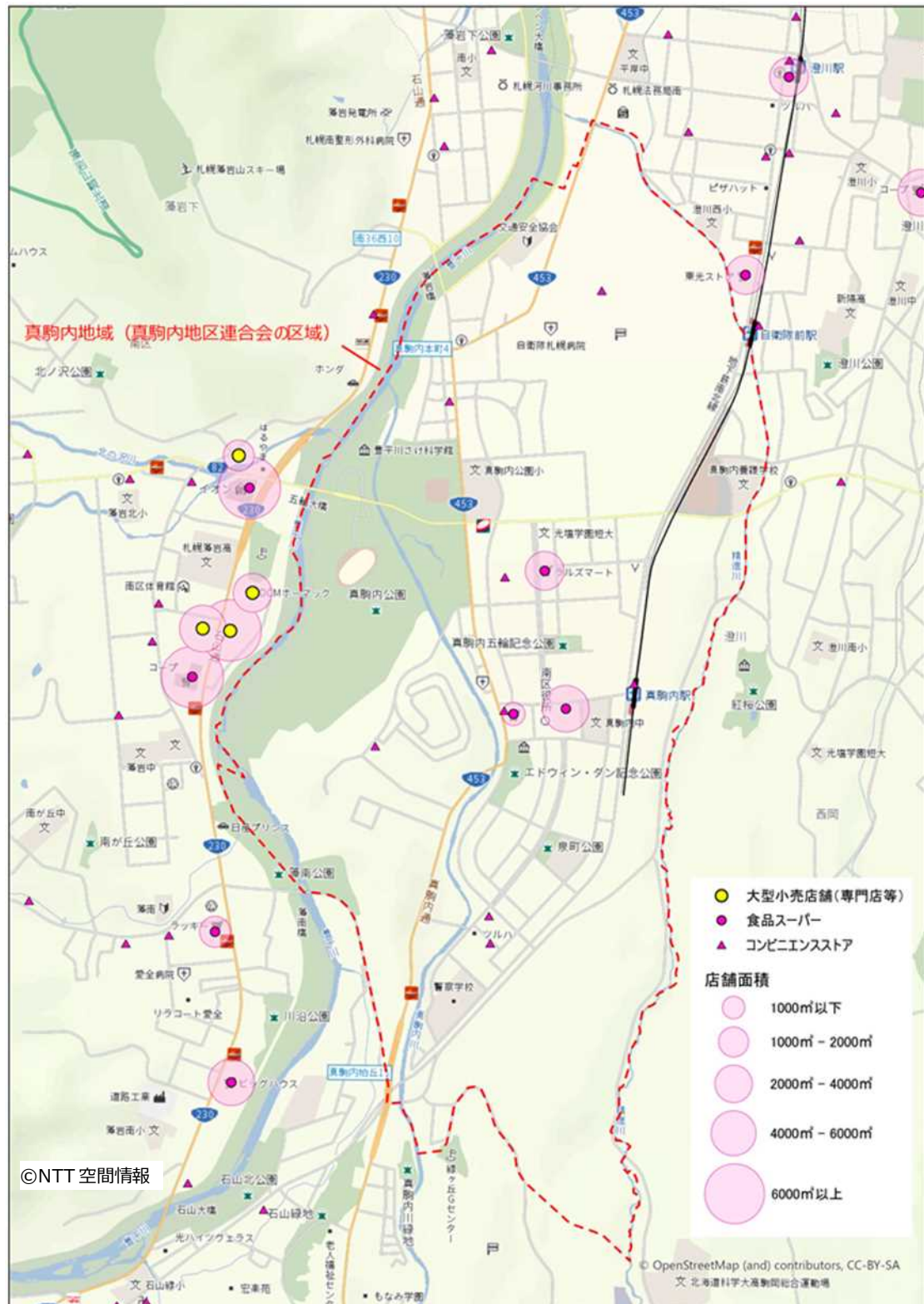
生活利便施設等の立地状況

《商業施設等》

- ・商業施設等の生活利便施設は、真駒内地域に一定程度立地しているが、国道230号（石山通）沿線に、より多く集積している。

生活利便施設等（商業施設）の立地状況

資料：東洋経済「大型小売店舗総覧2022」、コンビニ各店舗ホームページ

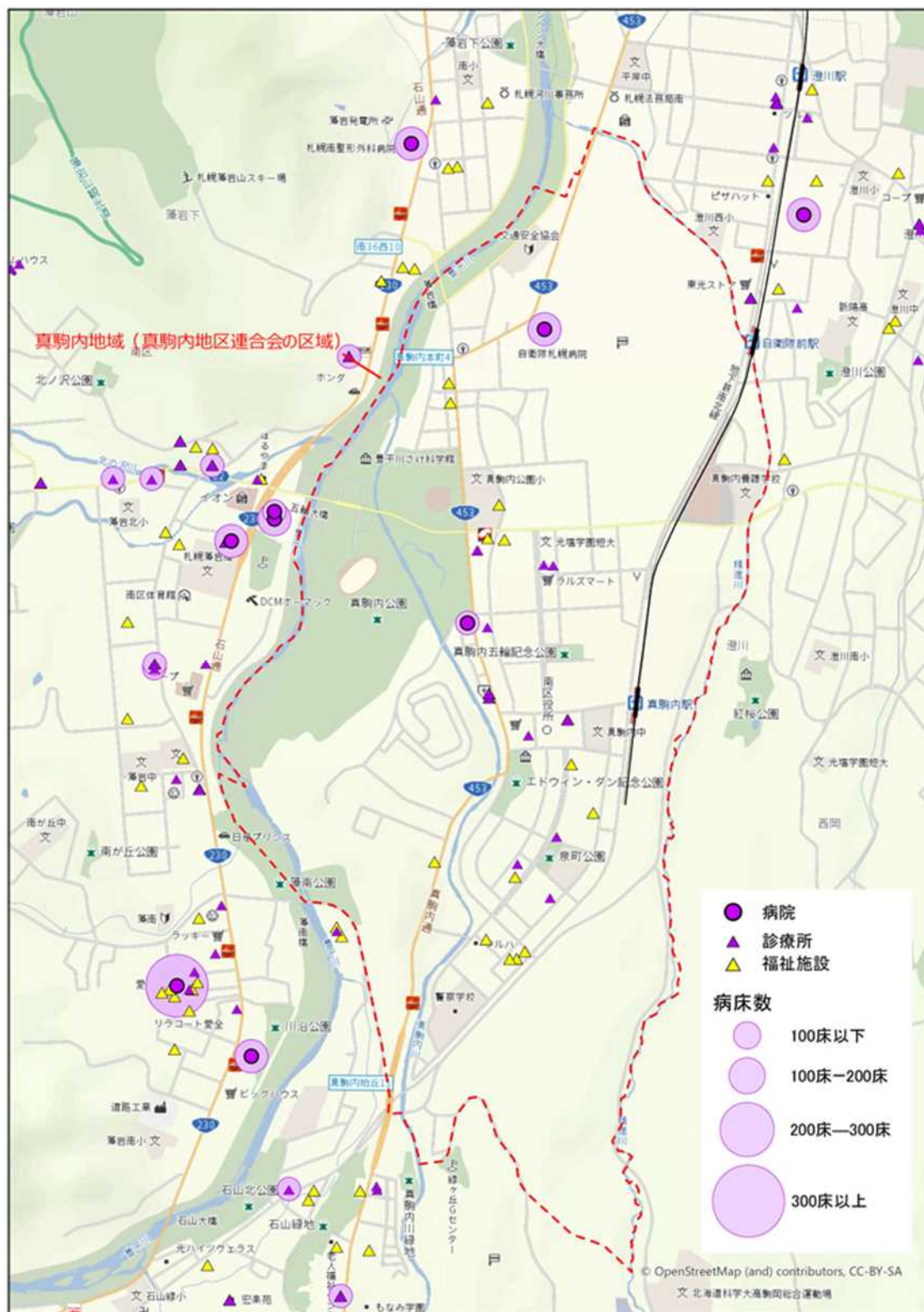


《医療・福祉施設等》

- ・医療、福祉施設は、大規模な病院を中心に国道230号（石山通）沿線に集積しており、真駒内地域の中では特に真駒内駅周辺が少ない。

生活利便施設等（医療・福祉施設）の立地状況

資料：北海道「道内医療機関名簿」、札幌市「札幌市内の介護事業所や施設の一覧表」



《教育・子育て関係施設等》

- ・教育施設や子育て関連施設は、真駒内地域とその周辺地域に一定程度立地している。

生活便利施設等（教育・子育て関係施設）の立地状況

資料：国土交通省「国土数値情報」、札幌市「さっぽろ子育て情報サイト」、札幌市「児童会館・ミニ児童会館施設一覧」



2-4 交通の現況

《道路・交通施設の状況》

- ・真駒内地域では、真駒内通、五輪通、平岸通が主要な道路網となっている。
- ・真駒内駅前には、バスやタクシーの乗降場、駐輪場、パーク＆ライド駐車場などの交通施設が配置されている。
- ・幹線道路の中では平岸通の交通量は少なく、近年減少傾向となっている。
- ・バス待ち環境や乱横断の発生等の乗り継ぎ環境に係る多くの課題を抱えている。

都市計画道路及び真駒内駅前の交通施設の配置状況



周辺道路の交通量 (平日 12 時間 7:00~19:00)

平岸通	: 7,800 台(H16) ⇒ 6,700 台 (H30)
五輪通	: 13,800 台(H20) ⇒ 13,300 台 (H29)
真駒内通	: 15,400 台(H20) ⇒ 15,300 台 (H30)

真駒内駅前の交通環境に関する主な地域要望



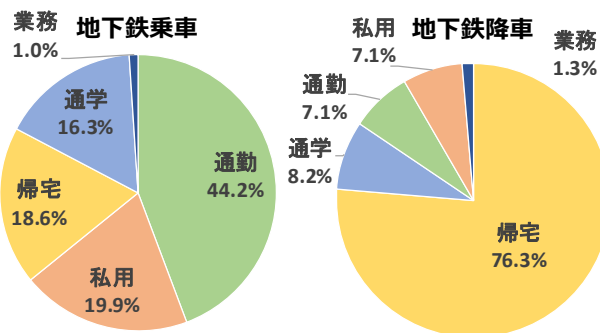
《真駒内駅（地下鉄・バス）の利用特性》

- ・真駒内駅の地下鉄乗車人数は約 13,000 人/日であり、主な利用目的は通勤・通学となっている。
- ・地下鉄利用者のうち約 6 割がバスに乗り継いでおり、他の始発駅と比較しても、その割合が高い。
- ・真駒内地域をはじめ、川沿方面、石山・定山溪方面、常盤方面の後背圏から、約 1,000 便/日程度のバスが発着している。

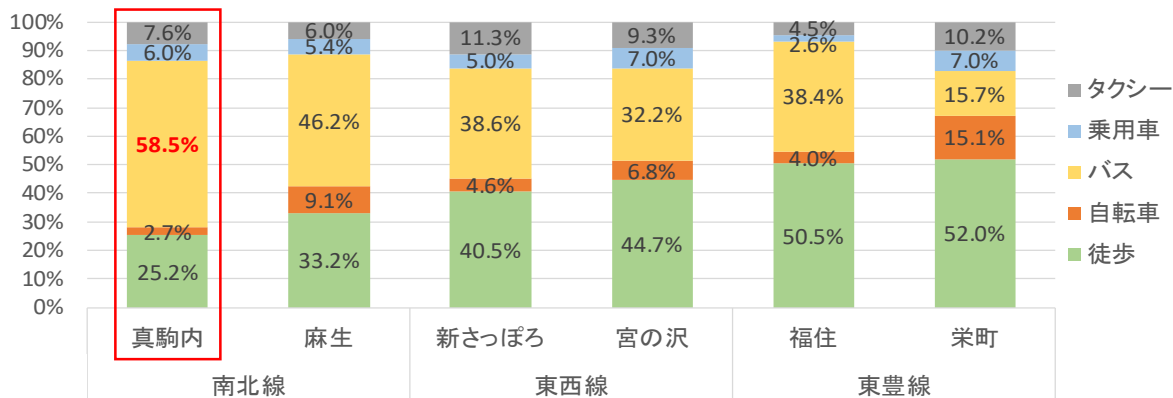
真駒内駅の乗車人員 資料：2019 札幌の都市交通データブック

路線	駅	乗車人員 (人/日)
南北線	麻生	20,678
	真駒内	13,087
東西線	宮の沢	14,671
	新さっぽろ	21,089
東豊線	栄町	8,322
	福住	16,126

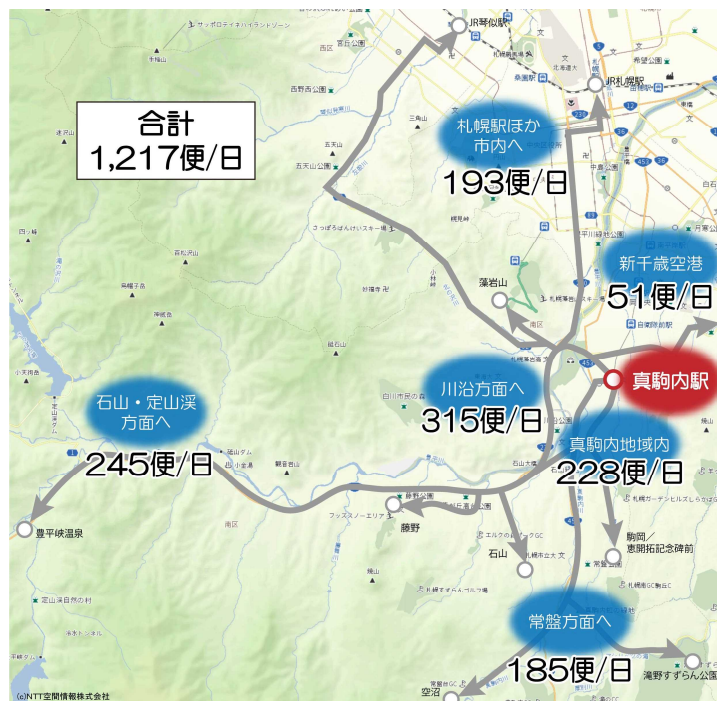
真駒内駅利用目的の割合 資料：平成 18 年パーソントリップ調査



地下鉄利用者乗り継ぎ手段割合 資料：平成 18 年パーソントリップ調査



真駒内駅を発着する主なバス路線・便数（平日） 資料：2019 札幌の都市交通データブック、各バス会社時刻表

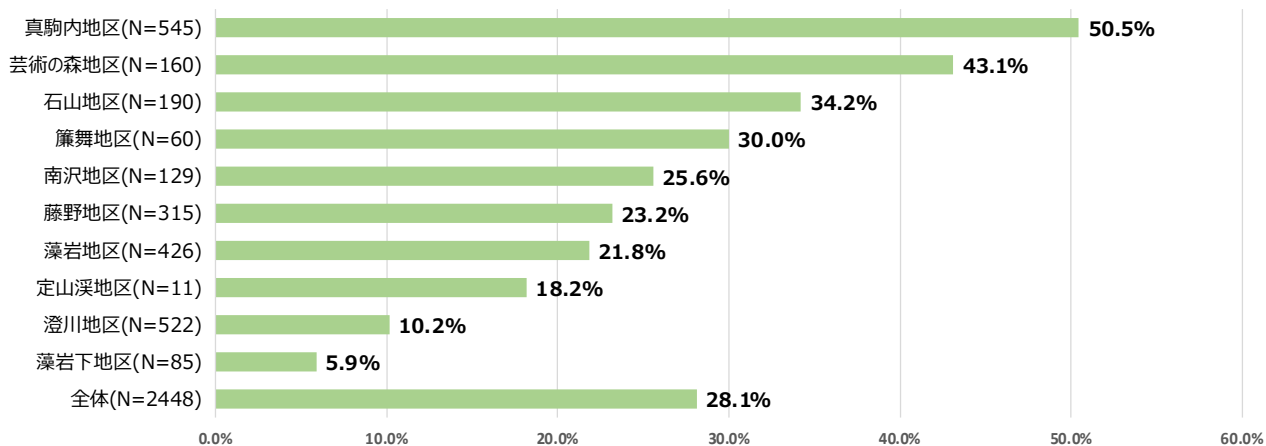


《南区の交通特性》

- ・真駒内駅を週1回以上利用する人の割合は、南区全体で3割近くを占め、真駒内駅以南の
後背圏の地域においても利用頻度は高い。
- ・南区内の私用（買物・娯楽等）での目的地は、川沿周辺が最も多い。

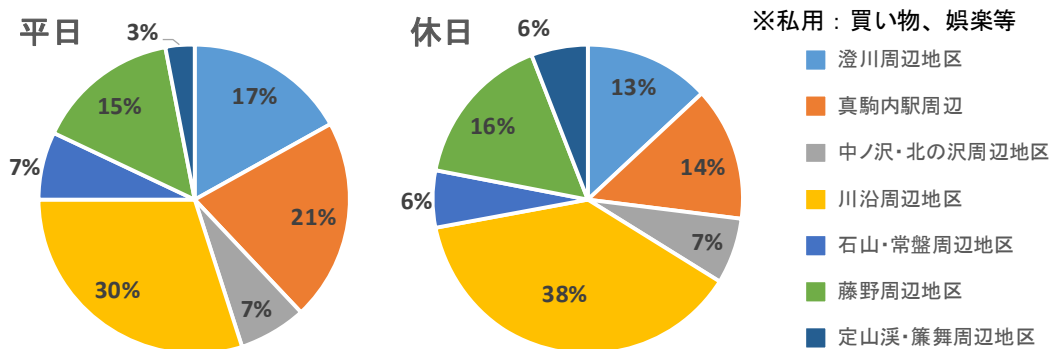
真駒内駅を週1回以上利用する割合

資料：真駒内駅前地区まちづくりに関する意識調査結果（第2回）から集計



南区内における私用での目的地の割合

資料：平成18年パーソントリップ調査

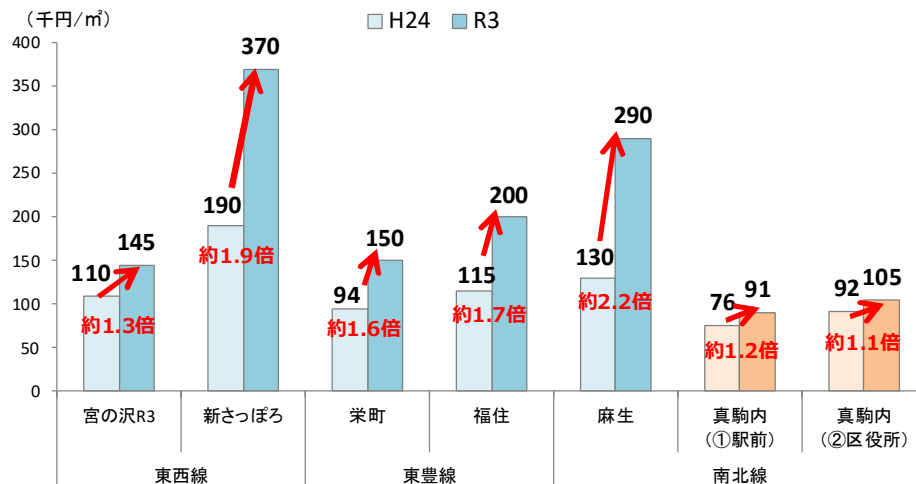


2-5 地価の推移

- ・真駒内駅周辺の地価は近年微増しているが、他の地下鉄始発駅と比べて上昇率は低い。

地下鉄の始発駅における路線価の推移

資料：国税庁「平成24年分財政評価基準書 路線価図」、「令和3年分財政評価基準書 路線価図」



2-6 みどり・公園の現況

- ・真駒内公園やエドウィン・ダン記念公園などの大規模な公園があり、また、地域内の道路には街路樹が多く、みどり豊かな住環境が形成されている。
- ・真駒内公園では日常的に大規模なイベントが開催されており、地域の公園においても夏まつりや雪あかりイベントなどが開催され、地域のイベント・行事に活用されている。



真駒内公園



エドウィン・ダン記念公園



豊富な街路樹



真駒内公園での大規模イベント



真駒内地区ふれあい「雪あかり」

みどり・公園の配置



2-7 エネルギー

・駒岡清掃工場の排熱を利用した地域暖房が整備されており、公共施設や団地などへ供給されている。

エネルギーネットワークの状況 資料：北海道地域暖房株式会社ホームページから抜粋



2-8 地域資源

・真駒内公園や真駒内屋内・屋外競技場、真駒内駅裏の保安林（通称：桜山）をはじめ、定山渓温泉や芸術の森、滝野すずらん公園など、自然や文化に触れる様々な地域資源を有する。

地域資源（真駒内地域）

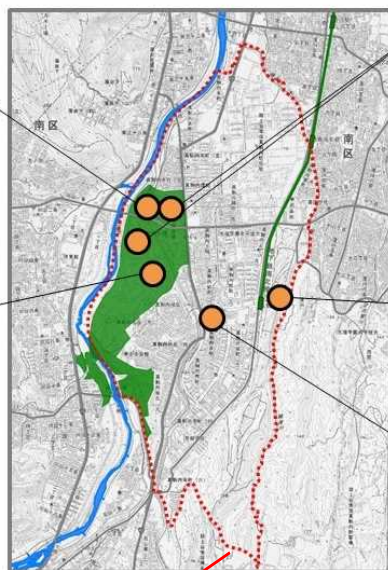
札幌市豊平川さけ科学館



真駒内公園



緑道



真駒内地域
(真駒内地区連合会の区域)

真駒内屋内・屋外競技場



真駒内保安林（通称：桜山）



エドウィン・ダン記念館



地域資源（南区）

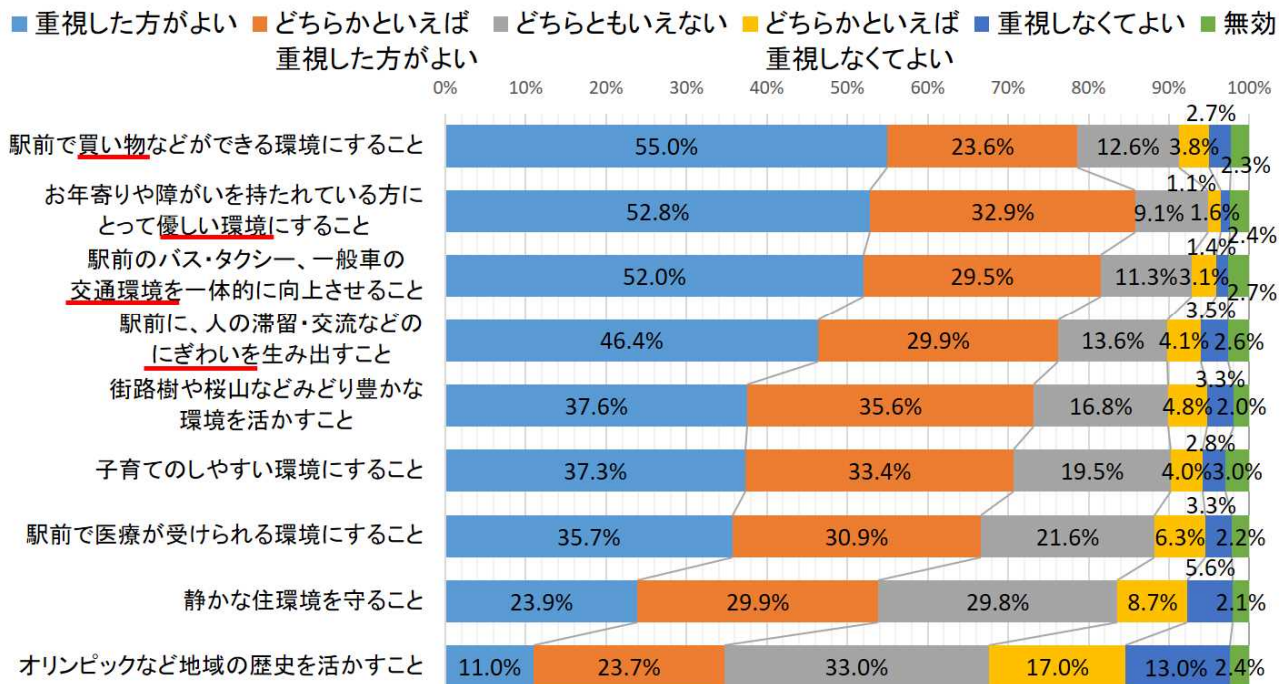


2-9 区民の意識

・真駒内駅前の再編で重視することとして、買物などの生活利便の向上、バリアフリーや交通環境の向上、滞留や交流などのにぎわいを望む人の割合が高い傾向にある。

真駒内駅前の再編で重視すること 真駒内駅前地区まちづくりに関するアンケート調査（第1回） 平成31年4～5月実施

Q9 再編で重視すること（全体）



2-10 まとめ

- 南区は、芸術、文化、観光、自然など札幌を代表する豊富な地域資源を有しています。
- 真駒内地域は、札幌冬季オリンピックの開催、地下鉄南北線の開通を契機に、計画的な住宅地としての開発が進み、豊かな自然とみどりに囲まれた良好な住環境を形成している地域です。また、地域暖房が整備されており、かねてより環境にやさしいエネルギーの活用が進められています。
- 真駒内駅前地区は、公共交通により南区内外の各地と結ばれており、南区の玄関口としての交通結節機能を担っています。
- 一方、高齢化や人口減少の進行、公共施設等の老朽化が進行している状況であり、さらに、生活利便機能や交通結節機能の面において多くの課題を抱えています。
- 真駒内駅前地区のまちづくりを進めるに当たっては、豊かなみどりや豊富な観光資源といった南区及び真駒内駅前地区の特徴やポテンシャルを生かしながら、駅前にふさわしい土地利用や交通機能の再編を行うことにより拠点機能を向上させ、まちの価値を高める取組が求められています。